

一、千五百五十二俵二斗三升七合五勺 高
 此内十俵
 十俵
 此荒五俵六升
 三百六十貳俵壹斗四升 荒
 卅五俵 昌中村ノ荒
 百四十俵壹斗三升 持田村ノ荒
 四十貳俵二斗七升 當開壹町四反百八步
 殘高
 九百五十一俵貳斗九升七合五勺
 此内貳百卅八俵 貳半免引
 七百十三俵二斗九升七合五勺 定納
 十九俵貳升 當開分
 合七百卅三俵壹升七合五勺
 此内
 三百七十五俵二斗六升 蔭山谷孫左衛門
 八十四俵 請取之面
 金七兩只今上申候

合四百五十九俵二斗六升
 殘て
 貳百七十三俵五升七合五勺 未進
 此内
 六十俵 金五兩 七月十五日以前
 七十貳俵 金六兩 七月廿五日以前
 七十貳俵 金六兩 八月十日以前
 六十九俵 三わり
 以上
 天正十五 七月四日 (前田利家) 印
 七月六日。前田利次、越中礪波郡今石動永傳寺に、山地を寄進す。
 【永傳寺文書】 越中 一九六八
 乍恐令啓上候。仍遙不遂尊顏候。此方御普請も相究申
 躰に御座候條、聽而罷下、心計可申上候。就中山之義、愛
 宕山之尾を眼北に二谷、柴山に令進上候。堅山留被成、
 可被立御用候。若又不致承引者於有之者、拙者山奉

行に被仰付、可被成御留候。罷下可得尊意候。恐惶謹言。

(天正十五年) 七月六日 前又二 次 在判

永傳 寺様 御同宿中

(永傳寺は天正十四年十月十二日の文書に見えたる矢波村高德寺を今石動に移したるもの。この文書に此方御普請といふは京聚樂亭修築の事に係るが如し。)

七月十日。前田利家、鹿島郡熊來村百姓の年貢米の定納を定む。

【北徴遺文】 一九六九

熊來惣中定納四千俵ニ申付候條、年貢米無由斷可馳走候也。

天正十五 七月十日 (前田) 家 在印
 熊來惣百姓中

七月十六日。前田利家、穴生源介に、百俵の地

を扶持す。

【穴生方傳書】 一九七〇

石川・河北兩郡之内を以、百俵之所令扶持訖。全可知行者也。仍如件。

天正拾五 七月十六日 (前田) 家

穴生源介所

八月七日。前田利勝、諸士に、豊前巖石城に於ける戦功を賞す。

【遺編類纂】 一九七一

去卯月朔日、於豊前國岩石城攻口、碎手忠節無比類働、彌可抽戰功候。然者爲褒美四百俵令扶助畢。全可知行之狀如件。

天正十五 八月七日 (前田) 勝 在判
 吉田長藏殿

【遺編類纂】 一九七二